

巻・頭・言

地域の活性化に思う

東京都は、4月1日現在の推定人口が1,300万人を超したと発表した。2000年(平成12年)に1,200万人に達し、その後はほぼ年10万人のペースで増加している。これは地方から仕事を求めて移住する人が増えたためらしい。また、総務省は4月1日現在の子ども数(15歳未満)は1,694万人と発表した。29年連続で減少し、総人口(1億2,739万人)に占める子どもの割合も36年連続で下がり、過去最低の13.3%となった。

このような統計が発表されるたびに、過疎・過密、少子高齢化、限界集落などの言葉が浮かんでくる。

地域産業研究会では1997年(平成9年)の発足以来、地域資源を見つけ出し、それを活用して地域の活性化に寄与してきた。分科会活動をはじめ、恒例会では活性化に活躍されている人の講演、現地見学会では地域への訪問、さらには交流等を行ってきた。

ところで、地域を活性化させるためには、若者、バカ者、よそ者が必要だと言われている。「若者」は誰もが思いつくように、地域の活性化が叫ばれるところは過疎化、高齢化が問題になっているところである。若い人が大勢いれば活気付くのは当然である。

次に「バカ者」。馬鹿と言われるくらい一生懸命に活動するという意味での「バカ者」である。地域の活性化に限らず目標に向かって突き進む行動力は必要である。

そして、「よそ者」。よそ者は地域の人たちが当たり前前とと思っている既成概念や地域資源等を客観的な視点から眺めることができる。また、しがらみがないうちから自由な発想が可能である。我々技術士は

伊藤 恒雄(いとう つねお)  
技術士(農業/総合技術監理部門)

(社)日本技術士会北海道支部  
地域産業研究会代表



主に「よそ者」として地域の活性化に関わってきた。

私は地域の活性化を長期的に見ると、キーパーソンは地域住民であると思う。活性化の成功事例を見たり聞いたりすると、必ずと言ってもいいくらい地域の中にキーパーソンがいる。

事例を1つ紹介する。徳島県上勝町の事例である。上勝町は「葉っぱ」ビジネスの成功例として全国から注目されている。日本料理に添える「つまもの」である葉っぱや花を販売するビジネスで、女性の高齢者がパソコンを駆使して市場情報を調べ、年収1,000万円を稼ぐ人もいる。

テレビや雑誌で紹介され有名になったが、キーパーソンは(株)いどころ代表取締役社長の横石知二氏で、1979年(昭和54年)上勝町農協へ入協以来、地域の発展に貢献されてきた方である。

私は数年前、横石氏が参加するセミナーに出席したが、氏の話は、①地域活性化の要は女性である、②コミュニケーション能力が大切である、③仕組みづくり(例：高齢者用のパソコン開発)も大切である、など地域の活性化にとって示唆に富んだ内容であった。

このようにキーパーソンの活動は重要であるが、この活動が個人から組織へと拡大し、持続的に発展することがさらに重要であると思う。

最後に、地域産業研究会の会員の一人が奥様と共にこの春、以前から交流のあった寿都町で農業を始めた。これからは「技術士」として、また「寿都の人」としての活躍を期待している。